



↑40周年を記念し聖路加病院の日野原院長の講演が行われた。

共に支え合う地域を目指して

■牧ノ原やまばと学園創立40周年記念式典

牧ノ原やまばと学園は、1970年4月に重度知的障がい児の居住施設として開園。ことしで40周年を迎えたことを記念し、創立40周年記念式典が10月11日、榛原文化センターで執り行われました。

長沢理事長は、「これまで支えてくださった皆さんに感謝します。障がい者も高齢者も地域の人も共に暮らせるコミュニティを目指して新たな一歩を歩んでいきます」とあいさつしました。

式典の後、聖路加病院の日野原院長による講演なども行われました。

ホールに響く元気な歌声

■榛原地区南地域小学校音楽発表会

榛原地区南地域小学校音楽発表会は10月7日、い〜らで開催され、牧之原市と吉田町の小学校13校が参加しました。

児童は、先生の指揮に合わせ心一つにして、練習の成果を発揮し、合唱や合奏を発表しました。

テノール歌手で同発表会講師の杉山久喜氏は、「この地域のレベルが年々上がっていてすばらしい。ほかの学校の良いところを学び、自分たちの歌に取り入れてください」と講評をしました。



↑先生の指揮に合わせ表情豊かに歌う川崎小学校の児童。

静岡牧之原茶でおもてなし

■無料お茶カフェプロジェクト

静岡牧之原茶のさらなるイメージ向上を目指し、このお茶を多くの人たちに知ってもらおうと「無料お茶カフェ」が市内31カ所で開店しました。

これは、市内の茶専門店や茶工場などが市と協力して無料茶を提供するものです。

それぞれのカフェが工夫を凝らし、茶園開拓当時の写真を展示したり、野菜や果物を販売したりするカフェもありました。

訪れた人たちは、お茶を味わいながら会話を弾ませ、ゆったりとした時を過ごしていました。



↑開拓茶農協のカフェでゆったりとお茶を味わう。



↑学校の歴史を振り返り、生徒へ期待を込めて話す中村校長。

先輩の努力に感謝し節目を祝う

■県立榛原高等学校創立110周年記念式典

県立榛原高等学校創立110周年記念式典は10月22日、同校体育館で執り行なわれました。

中村校長は「ふるさとを愛し、将来日本を支える人になってください」と式辞を述べました。

生徒代表として、前期生徒会長の井戸亮太さんは「高い志を持ち、『至誠真剣』の精神で榛原高等学校を進化させていきます」と誓いました。

その後、卒業生で元日本放送協会（NHK）会長の橋本元一氏が「故郷を思う心を育てよう」と題して講演しました。



↑来場者の血圧を測り健康状態をチェックする看護学生。

愛を込めて優しい看護を

■桂花祭/県中部看護専門学校

県中部看護専門学校の桂花祭は10月2日、「Heal People～愛を込めてみんなに届ける優しい看護」をテーマに開催されました。

校内には、模擬店のほかに老人体験や妊婦体験ができるコーナー、血圧や身長、体重を計るコーナー、足浴のコーナーなどが設けられ、学生が丁寧に計測や説明などをしました。

洗面器にお湯を張り、足の指先からマッサージしてくれる足浴を体験した来場者は、とても気持ちよさそうな表情を浮かべていました。

また、会場には「看護師を目指しています」と話してくれた高校生もいました。

障がい者も地域の人と共に楽しむ

■さざんかふれあい広場

さざんかふれあい広場は10月3日、さざんかを会場に開かれました。

これは、子どもや障がい者、地域住民の誰もが触れ合いを楽しめる場を提供しようと毎年開催されているものです。福祉団体が出店するブースでは障がい者が作ったパンやカップケーキ、ピーズなどが人気を集めていました。

市社会福祉協議会の板倉会長は、「これを機に、地域の人たちに福祉に関心を持ってもらい、お互いに理解を深めてほしい」と話していました。



↑第2こづつみ作業所では手作りのカップケーキを販売。



↑読み書きや、数字を並べるパズルに取り組む参加者。

読み書きやパズルで脳を活性化

■いきいき脳トレ学習塾

第1回いきいき脳トレ学習塾は10月5日、市内の65歳以上を対象に相良公民館で開催され、38人が参加しました。

これは、認知症を予防するため、他者と交流しながら脳機能を維持する方法を学んでもらうと実施されたもの。脳を活性化するために、数字のクロスゲームや計算、読み書きをしました。

参加者は、「時間を計りながらやるので、いい緊張感がありました。いろいろな人と会話し、楽しかったです」と話していました。



広報担当がどこにも取材に行きます。あなたの身近なホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報室 ☎ (23) 0044 ✉ seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp